



大会へ向けて練習をするかたわら、空手道部での活動も一生懸命に続けていた天野くん。大会での緊張感を集中力に変えられたのは、部活動を通して精神の鍛錬ができたからなのでしょう

手と技と機械を駆使し、丸棒の金属を100分の1mm単位の寸法に削っていく旋盤技術は、製造業の基本といわれます。そんな技術や技能を競い合う大会があるのを皆さんはご存じですか。県立狭山工業高等学校機械科の3年生、天野雄太くんは、8月に行われた、第3回高校生ものづくりコンテスト全国大会^①で第7位の成績を収めた、繊細な感覚と見事な腕の持ち主です。

旋盤技術は、3年生の課題研究の選択で4月から本格的に学び始めました。旋盤を選択したのは、小学生のころから手先を使うことが好きだったからです。そして始めて何回めかの授業で、天野くんにとってその後の考え方に大きく影響を及ぼす出会いが訪れます。当時ホンダエンジニアリングに勤めていた新井誠さんから、旋盤加工の指導を受けることになったのです。

新井さんは高度熟練技能者に認定されるほどの技能を持つ人物。その指導を熱心に受けた天野くん、素晴らしいのは技術だけでなく、素晴らしいのは技術だけではない。身につけた技術を使って何ができるかという考え方です。ものを作るだけでなく、その先を考えている姿を尊敬します」と真剣な表情で語ります。また、新井先生に指導を受けていると、もつともつといいものを作ろうと思っんです。自分には作るもの一つひとつが、部品ではなく作品です。その作品を褒めてもらえるという励みになるし、うれしくて、と少しはにかみ高校生らしい一面ものぞかせてくれました。天野くんにとって新井さんは先生であり、ものづくりへの心構えや姿勢も伝えてくれた人

卒業後は、家業の農業を継ぐための進学を考えている天野くん。どんな職業でも最高のものを作りたいという気持ちは一緒。貴重な経験ができて、ものづくりに対する自分なりの考え方も身につきました。と、次のステージへと踏み出す新しい一歩に向けて、希望に目を輝かせていました。



ひと - HITO -

一緒に頑張った仲間がいたからこそ 自信をもって全国大会に臨めた 後輩には優勝を目指してもらいたい

天野雄太くん(高校生ものづくりコンテスト全国大会第7位)



埼玉県代表として関東大会へ出場、2位となって全国大会へ出場の22名に名を連ねました

生の先輩なのかもしれませんが、全国大会への出場が決まっから放課後や夏休みになくさんの練習を重ねました。本番ではそれが自信につながったそう。そんな一生懸命な練習を一緒に積み重ね、支え

になってくれたのが仲間たちでした。一人で学校に来て練習をしても身につかなかったかもしれない。一緒に練習している友達のレベルも上がっていくのが分かりました。大会に出るのは自分なのだから、友達より上手に仕上げなくては...と、いいプレッシャーになりました」と振り返ります。大きな舞台で頑張れたのは、仲間同士の見えない励みがあったからこそなのでしょう。

ものづくり 狭山人づくり の産業



入間川七夕まつりでは各商店が趣向を凝らした飾りで訪れる人を楽しませます

夏の風物詩、入間川七夕まつりには、色とりどりの飾り付けとたくさんの人でにぎわう入間川七夕通り商店街。市内でも古い歴史があり、昭和42年に駐車場を利用して青空市場を行ったのをはじめ、昨年12月には新潟県津南町から10tの雪を運んで雪だるまを作ったりと、他にはないさまざまな取り組みに挑戦してきました。また、1年に2~3回開催される「たなぼた市」では、お客様に喜んでいただくためのアイデアをみんなで出し合います。

いつも自分たちに何ができるかを考え、時には他のまちにも目を向けて、そこに見出した「意外性」を形にしていけるための努力を欠かしません。「多くの人が愛着を持っている七夕まつりは、狭山の伝統として捉えられているもの。そこにある商店街だからこそ、歴史あるまちの良さも生かしていきたい」と、歴史と新しいチャレンジを大切にしながら、魅力あるまちを目指しています。

(入間川七夕通り商店街振興組合理事長 / 岡野陌男さん)
みちお

Hello ハロー 仲間たち

Vol. 268

「水野カメラ同好会」



「一眼レフカメラ入門講座」がきっかけとなり、初心者ばかりで始まった活動は今年で4年めを迎えました

奥富地区の東部自治会、中部自治会、西部自治会は、もともとは「上奥富自治会」でしたが、世帯数が増えて3自治会に分かれました。現在の世帯数は東部自治会約550世帯、中部自治会55世帯、西部自治会225世帯です。各自治会では通常の活動以外に、上奥富運動公園の河川敷を清掃したり、公園管理なども行っています。



「ふれあい東部」には模擬店も登場

その中でも、東部自治会は転入世帯が多いため、地区内の交流を深めるために「ふれあい東部」を行っています。今年で12回目を数え、7月に盛大に行われたこのイベントでは新旧の住民が親睦を図ることができました。その他にも各自治会が地区内の親睦を深めながら、明るい地域をつくるために、さまざまな活動を行っています。

私たち水野カメラ同好会は現在13名。ほとんどが公民館事業で始まった当時から仲間、毎月1回、第4土曜日に水野公民館で活動しています。活動日には自分の作品を持ち寄り、みんなで鑑賞します。同じ被写体でもそれぞれ視点が違うので、仲間と作品を見せ合うのが楽しみで、感想などを自由に話せる和気あいあいの会を好きな理由の一つです。そんな中、目的を持つことが大切」と、友好交流都市の新潟県津南町を活動のテーマとし、7月には現地の写真サークルの案内でひまわり撮影会を行いました。今後は津南町の四季を撮っていきいたいと思っています。そして、見た人に友好交流都市を改めて知ってもらい、交流を広げるきっかけ作りになれば、と、目標を大きく膨らませているところです。

写真がきっかけで生まれる出会いや交流、作品を撮るだけでなく、人と「和」を大切にしていける活動を、これからも目指したいと思っています。

問合せ

黒田勝一さんへ

☎ 958 7120